

スマートシティの実現に向けた中心市街地等における実証実験の実施について

1 目的

中心市街地においてICTを活用し、誘客や回遊性の向上、「新しい生活様式」における混雑の緩和を実現するための仕組みの構築に向けた実証実験を実施するもの

2 令和2年度の実証実験の概要

(1) 混雑を避けて中心市街地をお得に楽しむためのリアルタイム情報発信

- プロジェクト名：AIカメラ・センシング・デジタルサイネージ等による情報発信・データ分析プロジェクト
- 実施主体：Uスマート推進協議会
- 実施期間：令和2年12月7日（月）～令和3年2月14日（日） 約2か月間
⇒デジタルサイネージの設置：令和2年12月7日（月）～
⇒情報発信：令和2年12月14日以降準備ができ次第開始
- 実施内容：**別紙1**

- ・ お得に楽しむことができ、「新しい生活様式」において安心して来訪できる中心市街地を目指し、オリオン通りなど9地点の混雑情報や協力店舗（約20店舗）の混雑情報、クーポンなどのリアルタイム情報をデジタルサイネージなどから提供する実証実験を行う。

【特徴】

- **リアルタイム情報を基にした街区レベルの混雑状況などの情報発信**
「新しい生活様式」において「いつ、どこへ行くか」の判断を容易にするため、中心市街地や店舗の混雑情報などをデジタルサイネージやインターネットから情報発信を行う。
 - **見える化したデータを活用したマーケティング**
中心市街地の混雑状況などのデータを活用し、まちの状況に合わせたサービスやクーポンなどにより、待たずにお得に中心市街地を満喫できるサービスの提供を行う。
- ※ 複数の商店街をフィールドとして、まちのリアルタイム情報を基に中心市街地の混雑状況やお店の混雑状況に応じたサービスやクーポンを発行する取組は日本初

(2) スマホアプリや顔認証技術を活用した回遊促進サービスの提供

- プロジェクト名：顔認証技術等を活用した来訪者の回遊促進プロジェクト
- 実施主体：Uスマート推進協議会
- 実施期間：令和2年12月以降準備が整い次第、実証実験を開始 約2か月間
- 実施内容：**別紙2**

ア 中心市街地に来訪した方に新たな目的地を追加してもらうことを目指し、スマートフォンアプリを活用した地域店舗・イベント情報など、回遊のモチベーション・きっかけとなるサービスを提供する実証実験を行う。

【特徴】

➤ 回遊することがお得になるサービスの展開

中心市街地で利用できるクーポンやお得な情報の発信、スタンプラリーなどの企画をスマートフォンアプリで一元的に提供し、宇都宮の街歩きを支援する。

イ プロスポーツの試合を観戦に来られた方への更なるホスピタリティ向上を目指し、市内飲食店やスポーツイベント会場などにおいて顔認証技術の活用により、キャッシュレス決済や会場への入退場などの利便性向上を図り、混雑緩和の効果や、消費額の増加効果の検証を行う。

【特徴】

➤ 顔認証技術を活用した非接触サービスの展開

財布を持たずに買い物、会計が可能となるなど、ウィズコロナ、ポストコロナを意識した、非接触でのおもてなしを実現する仕組みを構築する。

プロスポーツチームと連携し、試合会場への入退場の一部に顔認証技術を活用した、待ち時間の短縮、混雑の緩和など観戦環境の向上に取り組む。

3 周知・広報について

- ・ 「広報うつのみや12月号」や市ホームページ、SNSを活用した情報発信
- ・ 下野新聞社などUスマート推進協議会会員と連携した情報発信
- ・ 宇都宮まちづくり推進機構、宇都宮観光コンベンション協会、市内大学・専門学校などの関係機関と連携した情報提供
- ・ 実証実験協力店舗のSNS等を活用した情報発信
- ・ 報道関係者を対象とした現地説明会の実施

4 その他

- ・ 実証実験の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮して実施する。
- ・ なお、今後の状況により、取組の内容や実施期間等が変更となる場合がある。

混雑を避けて中心市街地をお得に楽しむためのリアルタイム情報発信(概要)

～AIカメラ・センシング・デジタルサイネージ等による情報発信・データ分析プロジェクト～

①実施期間・場所

- ・実施地域：宇都宮市 中心市街地
- ・実施期間：令和2年12月7日（月）～令和3年2月14日(日)

②実施体制

※は事業統括者

- ・宇都宮市
- ・株式会社下野新聞社※
- ・株式会社日立システムズ
- ・早稲田大学
- ・宇都宮大学
- ・日本電気株式会社
- ・三井情報株式会社

③実証実験の概要

お得に楽しむことができ、「新しい生活様式」において安心して来訪できる中心市街地を目指し、オリオン通りなど9地点の混雑情報や協力店舗（約20店舗）の混雑情報、クーポンなどのリアルタイム情報をデジタルサイネージなどから提供し、混雑の分散効果を検証する。

④サイネージ・AIカメラ・Wi-Fiの設置予定場所

サイネージは2台、属性等(性別・年代)を把握するAIカメラは8台、通行人数等(滞留時間・来訪回数)を把握するWi-Fiは12台設置。

※混雑状況の発信は9か所(赤字)

NO.	設置位置	サイネージ	AIカメラ	Wi-Fi
1	JR宇都宮駅観光案内所	—	—	○
2	餃子通り	—	○	○
3	日野町通り	—	○	○
4	パンパひろば	○	○	○
5	オリオン通り(曲師町)	—	○	○
6	オリオンスクエア前	○	○(2台)	○
7	JTB宇都宮支店前	—	—	○
8	東武百貨店前	—	○	○
9	東武宇都宮駅	—	—	○
10	ユニオン通り	—	○	○
11	宇都宮市役所	—	—	○
12	みはし通り	—	—	○

⑤人流分析、見える化のイメージ



AIカメラ・Wi-Fiの情報を集約、中心市街地全体の状況をリアルタイムに近い形で可視化(マップ上で見える化)

【特徴】

「いつ、どこへ行くか」の判断を容易にするため、AIカメラやWi-Fiのリアルタイムの情報を基に、街の混雑状況の見える化を行い、デジタルサイネージやインターネットから情報発信を行う。



⑥デジタルサイネージの実証イメージ



【特徴】

中心市街地の混雑状況などのデータを活用し、まちの状況に合わせたサービスやクーポンなどにより、待たずにお得に中心市街地を満喫できるサービスの提供を行う。



↑サイネージの画面イメージ
サイネージスキームイメージ→

※ 詳細が確定しましたら、市ホームページ等を通じて公表します。

スマホアプリや顔認証技術を活用した回遊促進サービスの提供(概要)

～顔認証技術等を活用した来訪者の回遊促進プロジェクト～

別紙 2

① 実験概要

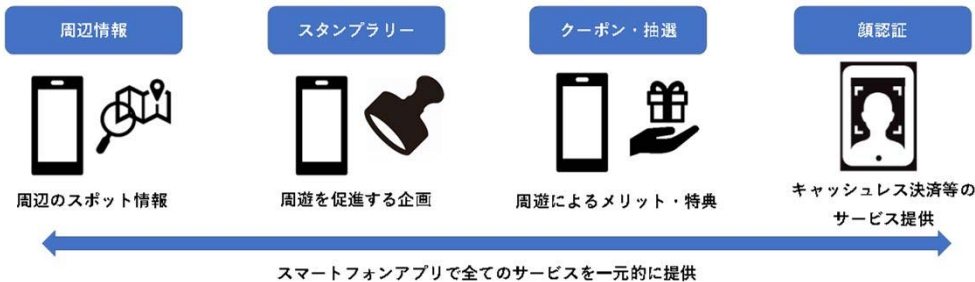
- ・実施地域：宇都宮市 中心市街地
- ・実施期間：12月以降準備が整い次第開始予定(約 2 カ月間)

② 実施体制 ※は事業統括者

- ・宇都宮市
- ・宇都宮大学
- ・日本電気株式会社※
- ・早稲田大学

③ スマホを活用した回遊促進イメージ

【概要】



・中心市街地に来訪した方に新たな目的地を追加してもらうことを目指し、スマートフォンアプリを活用し地域店舗・イベント情報など、回遊のモチベーション・きっかけとなるサービスを提供する実証実験を行う。

・中心市街地で利用できるクーポンやお得な情報の発信、スタンプラリーなどの企画をスマートフォンアプリで一元的に提供し、宇都宮の街歩きを支援する。



※画像は昨年度実証時のアプリ画面となります。

④ 顔認証技術の活用イメージ

【概要】

プロスポーツの試合を観戦に来られた方への更なるホスピタリティ向上を目指し、市内飲食店やスポーツイベント会場などにおいて顔認証技術の活用により、キャッシュレス決済や会場への入退場などの利便性向上を図り、混雑緩和の効果や、消費額の増加効果の検証を行う。

◆ 顔認証決済のイメージ 出典：日本電気株式会社ホームページ



スマートフォンで情報を登録



顔を登録



店舗端末で顔認証決済

財布を持たずに買い物、会計が可能となるなど、ウィズコロナ、ポストコロナを意識した、非接触でのおもてなしを実現する仕組みを構築する。

◆ 顔認証入退場のイメージ



※FIBA 3x3World Tour Utsunomiya Final 2019の際に行った顔認証技術を活用した関係者の入退場の様子

プロスポーツチームと連携し、試合会場への入退場の一部に顔認証技術を活用した、待ち時間の短縮、混雑の緩和など観戦環境の向上に取り組む。

※ 詳細が確定しましたら、市ホームページ等を通じて公表します。